

線状降水帯の予測精度向上により早期の防災対応に寄与

概要：線状降水帯の予測精度向上のため、水蒸気観測機器の整備等を進め、線状降水帯に関する情報を段階的に改善。令和6年5月から府県単位での半日前からの呼びかけを開始するなど、早期の防災対応に寄与。

対策名：113 線状降水帯の予測精度向上等の防災気象情報の高度化対策<5か年加速化対策>【国土交通省】

■ 実施主体：気象庁

■ 事業概要：

- 顕著な大雨を引き起こす線状降水帯の予測精度向上のため、水蒸気観測機器の整備や強化したスーパーコンピュータを活用した予測技術の開発等を進め、線状降水帯に関する情報を段階的に改善。令和6年度は以下の情報提供を開始。

・線状降水帯による大雨の可能性の半日程度前からの呼びかけについて、対象地域を地方単位から府県単位に絞り込んでの呼びかけを開始（令和6年5月）

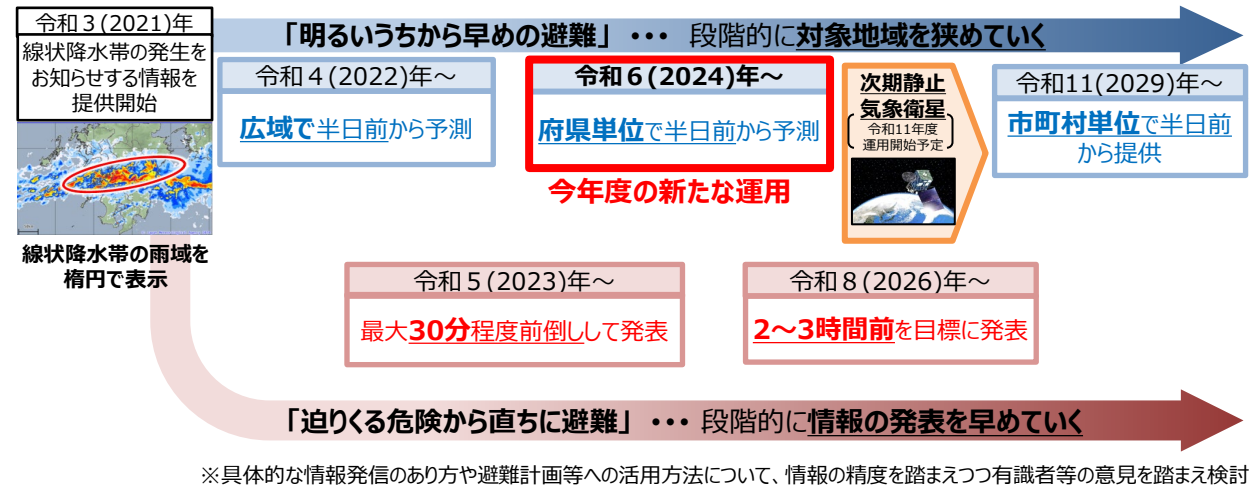
■ 事業費：約219億円（令和5年度補正予算）

※すべて5か年加速化対策（加速化・深化分）

■ 効果：

- 令和6年も台風や線状降水帯等による大雨が発生した。線状降水帯の半日前予測を地方単位から府県単位に絞り込んで発表を開始し、住民等がより我が事感を持って線状降水帯による大雨の危機感を受け止め可能になったことで、避難行動等の早期の防災対応に寄与。

線状降水帯に関する情報の改善



府県単位に絞り込んで発表できた事例

・鹿児島県(奄美地方を除く)・宮崎県に、半日程度前から線状降水帯の呼びかけを実施（令和6年6月）

